

■ 質疑応答

倪先生：参加されている会場の皆様にもですね、2、3ご意見、ご感想、あるいは質疑を、第1部の講話も含めてご意見を頂きたいと思っておりますけれども、話す前に所属、学年を話していただけてから話して頂きたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

日光市の方とか、あるいは参加された留学生、学生さん、あるいは参加されてなくても日光市、日光観光について詳しい方からのご意見、ご提案などありましたら宜しくお願い致します。

重田先生：宇都宮大学の重田ですが、宜しいですか？

倪先生：はい、どうぞ。

重田先生：皆さん、他に質問がないので……コロナ禍の、あるいはコロナ後の日本や日光のインバウンド事業の展望について述べて頂いたんですけれども、やはり外国人の方々を対象にもっと増加、拡大していくような政策の方がいいのか、それとも現状維持的なもの、日本人ももっと増やしてやっていくようなインバウンド観光政策がいいのか、今後の展望含めてご回答いただければと思うんですが、いかがでしょうか。

倪先生：では伊東課長からコメントいただけませんかでしょうか。

伊東課長：はい、ただ今重田先生の方から今後の観光について、外国人の方を対象にした方がいいのか、また国内を対象にした方がいいのか、こういった政策を中心に、といった内容のご質問がございましたけれども、なかなか即答するのは非常に難しい所は実際ございます。というのは、当然今回コロナ禍によって状況が一変してしまいました。国の方では2030年6000万人というインバウンドの観光の政策目標は変えてございませんけれども、今回コロナによって日光市を訪れてくれている観光客というのは、1月から6月まででございますけれども、日本の日帰りの旅行客は56%くらい、約半分位に減ってございます。また宿泊も43%くらい、外国人宿泊に至りましては23%くらいということで、当然1月2月3月は少しまだありましたけれども、4月以降はガクンと減ってきていると。当然今国は受け入れしてございませぬので、少し緩和はされてきておりますけれどもまだまだインバウンドが元に戻るのには数年かかるだろうと言われております。その中ではやはり国内を少し優先的にやらなくてはいけないというところは、これはどこの市町村でも同じかなと思っておりますけれども、ただやはり国際交流都市日光といたしましては、インバウンドはこれだけ着実に伸びてきていた、また解除後についても日光市を訪れてくれる外国人観光客は多くなるだろうというのから考えますと、当然外国人向けの環境整備というのは、非常に力を入れていく必要があると思っております。ただですね、先ほど私が最後に言わせていただきましたけれども、外国人向けの環境整備を行うということは、国内向けの環境整備も同時に行うということと同じことでございますので、外国人の方、インバウンドの食事の面であったりとか、多言語化の問題というのはございますけれども、受け入れをするといったところに置きましては、やれることを1つずつやっていくほかには変わりはないので、両方、まあ両方というのもずるい言い方かもしれませんが、それについてはバランスよく外国の方の受け入れ、国内の集客というのは行っていききたいかなと、そのように感じております。以上でございます。

倪先生：はい、ありがとうございました。他にはズームのチャットの方に、日光市の芦野弥生様からご意見ですかね、ご提案がありました。読み上げますけども、日光の美味しい水に関する体験をもっと発信すればよいのではないかというご意見と、自然体験アドベンチャーをヘリテージに加えてもっとたくさん発信して欲しいというご意見がありました。これについては、伊東課長、いかがでしょう。

伊東課長：はい、今言われたように、美味しい水と自然体験ということでございますけども、日光は非常に水が豊富ですし、日光からの水は非常に美味しい水でございます。それらを活かしていく、水のある風景なんてことでパンフレットなんかも作ったりはしてございますし、当然天然水というのは美味しい水がないとできませんので、その辺を売りにしていくというのは1つ観光施策としてはあるのかなという風感じております。あと当然自然体験というのは、先ほど増渕代表の方からもございましたけれども、これから伸びていくものだと思っております。今回コロナ禍においても、その辺の自然体験だったり、自然に限らず、体験に向けての、例えばクーポンの発行なんか、日光市は行ってございます。その辺についてはガイド協議会の皆様方と連携を図りながら発信ができていけばいいかなと、そのように感じております。ありがとうございます。

倪先生：はい、ありがとうございました。